

西脇市保育士等キャリアアップ研修（乳児保育分野）

受講者感想（2021. 10. 23）（一部抜粋）

<p>○乳幼児期に全力で体を使って遊ぶ経験をする事で子ども達の発達、発育につながる事が分かりました。家庭や地域で体を動かす経験や場が減っている分、園でのその経験の保障をすることが大切であると感じました。</p>
<p>○昔と今の子どもの変化を知り、子ども達の運動や体力の変化や関連等、分かりやすく図式化されていて、とても興味深かったです。幼児クラスになってから、様々な運動遊びや経験ができるようにするだけでなく、乳児の時から色々な経験をすることが大切だと思いました。</p>
<p>○昔に比べて、集団で群れて遊ぶ子どもの姿が減少しており、伝承遊びは園での経験によりそれ以降の遊び方に大きく関係してくることを知りました。現在0、1歳児クラスの担任をしているため、クラスの子どもに重ねてすごく勉強になりました。小さい頃から、跳ぶ、登る、ぶら下がる、押す、引っ張る等全身を使った運動をすることの重要性を改めて感じました。</p>
<p>○保育を行っている中で、年々子ども達が怪我をしやすくなったと感じていましたが、今日の研修を受講して“そういうことか！”と腑に落ちました。今まで子どもの身体の動きを何気なく見ていましたが、私達保育者が運動能力の向上、機能の育ちの向上につながっていくように意識をしてかかわりをもつことが必要だと認識しました。</p>
<p>○子どもの脳の発達には順番があり、そわそわした後、興奮型の脳を作ることで抑制型が表れ、活発型になるということに驚きました。子どもと触れ合いながら危険のないように、ほどほどに脳を興奮させられる動きも考えていきたいです。</p>
<p>○今と昔で子ども達の遊びの内容が変わってきたことは分かっていたのですが、今日の研修を受けて、体力・運動能力にも差ができていくことが分かりました。その為、園で遊びの保障することが大切だと思いました。『基本的動作84種類』を意識して、保育を行いたいです。</p>
<p>○保育所保育指針に書かれていることを噛み砕いて具体例を出していただけたのでイメージがしやすかったです。私は0歳児の担任で、日々「子ども達が今日、今この瞬間を幸せに生きていけるように」と思って保育をしています。クラスの子、一人ひとりが幸せな人生を送ることができるように心と体を育てていきたいです。</p>
<p>○今日の話で、脳にも発達の順序があり、興奮のアクセルを育てることも大切な発達の一つだということが分かりました。安全な環境を整え、子どもが安心して遊べる場を提供していきたいと思います。</p>
<p>○子どもの発達において、体力・運動能力を高めるためには様々な動きを『全力で』行うことが大切だということが心に響きました。日頃サーキット遊びを行っていますが、この研修を基に、サーキットの内容も工夫したいと思います。思い返すと、サーキットを好んで行う子は、両足跳びもできて、製作等も器用だったりするな、と感じました。色々な運動経験が他の発達の良いところにも影響していることには本当に驚きました。</p>
<p>○資料やビデオを見ながら説明、また、その場でアンケートに答え結果をすぐに共有できたのがおもしろく、色々なアイデアがあるなと感心しました。子ども達の生活や遊びの環境が変化している中で、運動能力や遊び方にも変化があるという点を理解し、生活習慣の自立に向けて援助や、様々な運動遊びを経験できるように保育を進めたいです。</p>

○今回の研修で一番印象に残っていることは、午睡時になぜ「体ごと仰向け」にしないといけないのかということでした。今まで窒息が理由だと思っていましたが、そうではなく、心臓があたたまることによって脳の呼吸中枢に影響を及ぼすからだということが分かり、これから、もっと気を引き締めて午睡チェックをする必要があると感じました。

○保育所保育指針に書かれているねらいを達成するための具体的な内容が、指導計画に盛り込まれているかが大切だと分かりました。今回の改訂のキーワードは、試行錯誤、自分でやり遂げる、自信をもって、発見する喜びを感じるということを知りました。

○1、2歳児での遊びの内容が、3歳児以降の運動機能に影響することを知り、保育の連続性の大切さを感じました。全力で遊ぶことを子どもだけでなく、大人も全力で子ども達とかかわっていきたくて思いました。園での活動が将来の子どもの成長に大きく関係するということを改めて感じた研修でした。ありがとうございました。

○子どもの遊び方や状況等を、昔の統計を見ながら、現代の様子をグラフ等で示していただき、とても分かりやすく興味深かったです。興奮するという経験が子どもにとってとても重要であると新たに学びました。これまでは、子どもが興奮する場面はいけないこと、怪我をする恐れがあるので抑制させていたので、今後はそのような経験も取り入れながら、けじめのある生活の中で、子どもの発達を促していきたいです。

○普段の保育の中で、「なんでこの子は落ち着きがないのだろう？」と疑問に思っていたのですが、この研修で脳の仕組みや、どうしたら子どもの成長につながるのかを具体的に知ることができました。子どもの成長・発達は連続性のもので、乳児期の適切なかわりや、色んな経験が幼児期の心と体の成長につながるということが分かりました。

○現在の子どもは、集団の群れで遊ぶ経験、物を操作する遊びが減少している為、普段の遊びを考えることが必要だということを知りました。私は栄養士なので、子ども達が毎日元気に活動できるように、しっかりと栄養の面でサポートし、食育の中で、触れる、嗅ぐ、味わう等の感覚も育てられる活動も取り入れていきたいと思えます。(栄養士)

○普段、日中の子どもの様子を見るのが少ないですが、子どもとかかわる時には、今どんなことをしたいのか、伝えたいのかを読み取りながら、子ども達と接していきたいと思えます。食事の様子を見に行ったりして、今どんな姿なのかを知り、声かけをしたりしてコミュニケーションを取ってきたいと思えます。(栄養士)

○脳の活動の興奮と抑制を知り、小学校高学年でも不活発（そわそわ）型の子が多い＝脳の育ちが遅くなっていることを知り、びっくりしました。たくさんの遊びで子ども達の心や体を動かして遊んでいこう、子ども達がワクワク、ドキドキできる保育をしていこうと思えました。ありがとうございました。(市外参加者)

○改めて乳児期に大切なことや、かかわり方を知ることができ、自分の保育観を見直す良いきっかけや良い学びになりました。子ども達と全力で遊び、全力で体を動かして色々な動作や遊びを子ども達に伝えていきたいです。(市外参加者)

○活動の中で荷重動作や攻撃的動作等、避けてしまう動作もありますが、そのような動作を保育の中に取り入れることも子どもの発育には良いということを知り、個々の成長や年齢等を考え、怪我のないように配慮しながらも子どもが全力で遊び、基本的動作を増やしていけるような保育を心がけていきたいと思えます。(市外参加者)

○普段から、戸外遊びで走る・跳ぶ等を取り入れてはいますが、それ以外押す・引く等、今まで思ってもいない大切さを知り、今後、安全面に注意しながら取り入れたいと思えました。(市外参加者)